

## 北九州シティマラソンで にぎわいと健康づくりを！

**議員** 市民の健康志向が高まる中、楽しみながら、普段は走れない町なかを走るシティマラソンの人気が高まっている。

そこで、市の魅力を発見しつつ、健康で楽しい一日を過ごすことができる「北九州シティマラソン」を実施してはどうか。

## 教育長

シティマラソンの開催は、市民の健康づくりに貢献できるなどの大きなメリットがあるだけでなく、多くのランナーや関係者が訪れることにより、まちのにぎわいづくりや全国への情報発信に大いに効果がある。仮に開催できれば、最大1万人の参加者が見込めると想定している。一方、開催にあたっては、交通規制に伴う市民生活への影響や選手の宿泊場所の確保など、多くの課題があるが、何よりも市民の熱い思いや理解、協力が極めて重要である。

今後、開催の可能性や課題解決の取組など、関係団体等と連携して調査研究していきたい。

## PCB廃棄物処理の 安全対策は？

## 議員

PCB廃棄物処理事業では、搬入計画の具体化などが進んでいるが、平成27年3月までに計画どおり処理が完了するのか。また、PCB廃棄物を鉄道輸送する場合、門司のターミナル駅で積み降ろしたコンテナを運ぶトレーラーが小学校近くを通ることもあるが、どのような安全対策をとるのか。

## 環境

廃棄物処理は、計画どおり完了するよう業者に対して引き続き指導・監督を行っていききたい。

一方、安全対策としては、駅から処理施設までの運搬にあたって、①廃棄

物を漏れ防止型の金属容器に入れ、さらにコンテナに収納する、②夜間・悪天候時の運搬制限、③先導車両の義務づけなどを行う。

また、今年2月には、門司の地元関係者に対して、輸送方法等の説明会を行い、協力をお願いしている。

## 魅力のある中央卸売市場を！

## 議員

老朽化した中央卸売市場の整備改修が検討されているが、たたりニューアルするだけでは、衰退傾向に歯止めがかからない。新しい観点から思い切った魅力づくりが必要ではないか。

## 経済文

同市場の取扱量の減少は、大型スーパー等による市場を通さない取引の増大、外食や総菜の普及による消費者の食生活の変化、ユースや冷凍野菜等の輸入加工品の増加などが主な要因と考えられる。

このような中、市民に親しまれる市場を目指し、市場内の業者の協力を得て、午前10時以降は市民に開放している。また、こども料理干選手権の開催や、小学生や一般市民、海外からの視察団を受け入れるなど、開かれた市場づくりに取り組んでいる。

今後、新しい観点から魅力ある市場を目指して、他の卸売市場の状況等を調査研究するなど、何ができるか検討していきたい。

## 小倉都心に自転車専用道路を！

## 議員

車道と歩道の間に独立して作られる「自転車専用道路」や、車道の一部に色を塗って表示する「自転車専用レーン」を整備するモデル地区が全国で指定され、市内では小倉北区と小倉南区の2か所で整備される。

このうち、小倉北区の三萩野魚町線では、自転車専用レーンが検討されているが、都心部では自転車専用道路を

設置すべきではないか。

## 市長

三萩野魚町線については、新たに用地買収を行うことなく、現在の道路の幅で車道を3車線から2車線にし、両側の車道と歩道の間に自転車専用レーンを設置する。

しかし、都心部全域に、自転車専用道路や自転車専用レーンを設けるには新たに用地買収を必要とする箇所が多いため、長期間に渡り、しかも多大な費用を要する。

まずは、2か所のモデル地区で整備を行い、その結果を十分に検証したい。



現在の三萩野魚町線

## スポーツ振興に対する 方針について

## 議員

これまで教育委員会が所管していたスポーツ部門を、市長部局に移管することが今回提案されており、スポーツ振興に対する市長の強い意志を感じる。

今後、スポーツ振興について、どのような方針で臨むつもりなのか。

**総務市長** スポーツの振興は、市政の重要課題の一つであると認識している。そこで、これまで市長部局と教育委員会がそれぞれ実施していたスポーツ施策を、地域づくりの観点から総合的に実施するため、企画文化局を新設する。

市制45周年の本年は、多くの市民が

スポーツや健康づくりに親しみむことも、まちのにぎわいづくりにも参加できる環境を整備し、全国に「元気発進！北九州」をアピールしたい。

また、スポーツを核とした、ピタターズ・インタストリー（集客産業）の振興にも弾みがつくと考えている。

## 子育て日本一にふさわしいものに (仮称) 赤ちゃんの駅

## 議員

平成20年度予算案に「(仮称) 赤ちゃんの駅」設置に関する事業費が計上されている。

設置にあたっては、市が子育て日本一を目指すにふさわしい内容や、安心して利用できる環境づくりが求められるが、どのように取り組むのか。

**子ども** この駅は、赤ちゃん連れの家庭局長 親子が外出した際に、旗などの分かりやすい目印を頼りに気軽に立ち寄り、授乳やオムツ替えができる場所のことである。

駅を安心して利用できるように、授乳やオムツ替えのスペースの確保、衛生的な環境の提供など、利用者の安全衛生面を考慮したガイドラインを作成し、現地を確認した上で、その基準に合った施設を指定する。

現在、公共施設だけでなく、民間事業所にも協力を求めており、自動車デラーや健康飲料の販売店などの了解を得ている。

今後は、イメージキャラクターをデザインした旗の掲示や、ホームページ等により積極的に広報していきたい。

## 福祉事務所の体制強化を！

## 市民に信頼される保護行政へ

## 議員

最近の生活保護受給者の増加に伴い、福祉事務所の担当職員（ケースワーカー）が受け持つ世帯数も増えている。そこで、ケースワーカーが、全力で仕事に打ち込める職場づくりが必要と考えますが、市はどのようにバックアップするのか。

まず、福祉事務所の職員体制に関しては、①保護世帯の増加に見合ったケースワーカーの配置、②面接担当者へのケースワーカー経験者の配置、③保護受給者を精神面でサポートする臨床心理士の配置などを着実に実行し、これまで以上に体制を強化していく。

また、これまで、マニュアルに基づいた福祉事務所の対応の一部に、配慮に欠ける点が認められたため、現在、マニュアルの改訂や新しい手引書の整備をしている。

今後、職員一丸となって、市民に信頼される保護行政となるよう新たな第1歩を踏み出していきたい。

## 市政における消防業務の 位置づけは？

## 議員

救急対応や災害時の危機管理において、消防業務の必要性は高まる一方であるが、市政の中で消防業務をどう位置づけているのか。

**市長** 近年、集中豪雨や地震など、自然災害が予想を超える甚大な被害をもたらしており、市民の生命や財産を守るため、消防力の充実・強化に努めてきた。

また今後、企業誘致など都市経営を戦略的に進めるためにも、安全・安心のまちづくりはその基盤となるものであり、市民生活の生命や財産に直結した消防行政は、重要な行政分野の一つである。

このため、財政状況は厳しいが、平成20年度の消防業務の予算には、消防車両の計画的な更新や消防団施設の構築など、必要な経費を計上している。

## 食の安全対策について

## 中央卸売市場の対策

**議員** 昨年、食の安全を揺るがす事件が数多く発生して

いるが、これは、人の命や健康に関わる重大な問題である。そこで、中央卸売市場での輸入野菜・魚介類の検査体制や安全対策について尋ねる。

**保健局長** 同市場を流通する食品について、5名の食品衛生監視員を配置し、市場内の監視や食品の検査を行い、安全確保に努めている。

野菜や果物などの農産物には残留農薬や細菌の検査を、魚介類には細菌や水銀、PCBなどの残留有害物質の検査を実施しており、平成18年度の検査の結果、いずれも違反はなかった。

このほか、市場内の監視による有毒魚介類の排除や施設の衛生管理に関する指導、市場内の事業者への衛生教育などを行って、市場内の安全対策に取り組んでいる。

## 寄附の定着と拡大に工夫を ふるさと納税

## 議員

地方公共団体に寄附した個人への住民税の優遇措置を拡充する制度（ふるさと納税）が設けられた。

そこで、本市への寄附の定着と拡大のために知恵を絞る工夫を重ねながら、高額寄附者には何らかのメリットがある制度にできないか。

**市長** 同制度に力を入れて取り組むため、平成20年度予算案に、ふるさと寄附制度促進事業費を計上している。これは、本市にゆかりのある市外居住者を中心に、市の魅力や地域振興の施策の情報発信を強化し、ふるさとである本市を応援してもらう事業である。

特に、本市にゆかりのある著名人に対しては、市の幹部等が個別に訪問し、ふるさと納税の案内を試みる。

さらに、一定の寄附をいただいた方には、市の情報誌「雲のつえ」を年4回送付し、魚介類や生鮮野菜などの市の特産品を「北九州パック」として届けることなどを考えている。